

大島紬産業の技術継承を困難とする社会背景変容の解明とレンタル事業を活用した稼げる化策の提案

鹿児島大学法文学部3年・早崎梨沙

大島紬の産業振興を検討する理由

①大島紬は斜陽産業

紬従事者の賃金は、時給300～400円とも言われている(砂山七郎 2013, p.133) →大島紬だけでは食べていけない

②稼げないから後継者がつけれない

大島紬だけでは食べていけず、職人たちは後継者を責任をもって育てにくい(発表者ヒアリングによる)→職人の賃金上昇策の効果はみられない

③文化財保護? 産業振興?

「時代が変わり商品としてその価値が認められなくなって、経済効果が期待できなくなれば大島紬がいくら素晴らしい織物であっても廃れていくしかない」(関口千佳 2017, p.188) →しかし、商品としての価値を再認識してもらうことは可能であると考え

既存の取り組みの問題点

- ・小物や洋服の製作によって大島紬を身近なものに
→他の安価なものや流行のデザインのものなどとは戦えない
大島紬の魅力である着心地を伝えることができない
- ・織物専門学院での技術伝承
→低賃金で社会保障もないという職業としての不安定さから、実際に大島紬業界に入る人は少ない
- ・県や市からの補助金
→“文化”ではなく“産業”として成立させるには補助金では限界がある

↓
現地調査の結果、3つの視点から社会背景変容を理解すべきと考えた

家族関係の変化

価値観

選択肢の増加

三つの視点から理解する生産者・消費者

	生産者	消費者
家族関係の変化	現場を直接見る機会が少なくなった 生活から現場が乖離	和装文化に触れる機会が減った
価値観	業界の古い価値観への固執	今日ではむしろ和装文化が新鮮
選択肢の増加	多岐にわたる職業・進路 →より条件の良い進路へ人材が流れる	多様な商品が市場に並ぶ →多様な選択肢の中から選ばれる必要性

レンタル事業で対応可能

大島紬のレンタル事業による“稼げる化”の提案

家族関係の変化

- ・本物の大島紬に直接触れる機会の創出
- ・クリーニングや修繕といった管理の必要がない

価値観

- ・幅広い世代が利用しやすくなることで、消費者のニーズや流行を捉えやすくなる
- ・大島紬がほとんど着用されていない今、反対に“新鮮なもの”となっている

選択肢の増加

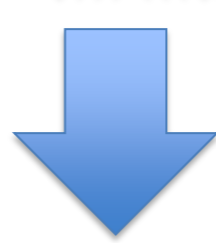
- ・新たなビジネスの構築による収入の増加
→賃金の上昇を狙う
- ・気軽に本物の大島紬に触れられる機会となり、大島紬を購入してもらうための入口となる

既存の着物レンタル

主な着物レンタルサービス

- ・成人式の振袖 ・卒業式
- ・冠婚葬祭 ・観光客向け

◎若者でも少なからず着物に触れる機会がある



- ・若者でも大島紬と他の着物との比較ができる
- ・本物の大島紬だけが持つ良さを伝えることができる
→着物レンタルから次のステップとして大島紬レンタルへ



大島紬レンタル

“稼げる化”を狙うレンタル事業の形

レンタル事業は大島紬の製造者が行う

- ・既存の着物レンタル業者でサービスを行ってしまうと、大島紬業界としての収入増が難しい
- ・直接客と接することで、現在のニーズや流行が掴みやすくなる

観光プランとセットで行う

- ・奄美大島での観光や、鹿児島本土の観光地(仙巖園や知覧武家屋敷など)で大島紬を着ながら観光することを提案
→観光業との相乗効果が見込める

販売も視野に入れたレンタル業

- ・レンタルと同時に販売も行う
- ・レンタル事業を通じて“本物”の良さを知ってもらい、購買意欲を高める
- ・将来的な購買意欲の刷り込み

レンタル事業がもたらす波及効果

①購買意欲を刺激

高い技術力を用いて手間をかけて作られた“本物”の大島紬に触れてもらうことで、大島紬に込められた技術や着心地の良さなど、本来の真の魅力を伝えることができる。この経験により、大島紬を手元に置きたいという人が出てくることも期待できる。また、現在生産されている小物や洋服などの購入促進にもつながる。

②大島紬の常識を乗り越える

今日の大島紬は実は紬ではなく、訪問着や振袖としての利用も期待されている。このような利用が、生産者・消費者共に新たな活用法に挑戦しやすいレンタルサービスを通すことで可能となる。大島紬の新たな利用シーンを提示することで、大島紬は普段着であるとの常識を超えた価値提供を行うことができる。

③後継者の発掘

今日では大島紬の現場が生活から乖離し、職業としても選ばれなくなっている。レンタルサービスを通じた本物の大島紬に触れる機会の創出や大島紬業界自体の注目度上昇などが実現されれば、ビジネスとしての大島紬への興味も促進され、職業選択時の選択肢の一つとなることが期待できる。

“稼げる化”が後継者育成を可能にする

大島紬だけでは稼げず生活が難しいことが、大島紬の職人を目指す人が減る大きな要因である。また、生産者も責任をもって後継者を育てることが難しくなっている。今回提案したレンタル事業が、大島紬の“稼げる化”の入口となることで、後継者育成の推進に繋がると考える。